

令和4年5月18日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並〔発生なし〕は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	いもち病 (葉いもち)	並	育苗期発生量：並〔発生なし〕 気象予報：気温並 降水量並	・ ほ場に置いた補植用置き苗は、発生源となりやすいので早めに処分する。
	ばか苗病	多	苗発病度：多(+)	・ 千葉県ホームページに掲載の下記情報を参照する。 「イネばか苗病ゼロに御協力願います!!」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/farmer.html)
	イネミズゾウムシ	並	2月越冬量：やや少(-) 5月上旬被害株率 ：やや多(+)	・ 移植から日数が経過して苗箱処理剤の効果が減衰する等の理由から、移植10日後以降に成虫が多数飛来した時には薬剤防除する。
	イネドロオイムシ	並	5月上旬被害株率 ：やや多(+) 気象予報：降水量並	・ 越冬成虫の本田侵入最盛期(5月中旬ごろ)の成虫数が10株に2頭以上の場合、又は産卵最盛期(5月下旬ごろ)の卵塊数が1株に1卵塊以上の場合には薬剤防除する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ ネ	スクミリンゴ ガイ (ジャンボタ ニシ)	やや多	5月上旬発生ほ場率 : やや少 (-) 5月上旬1㎡当たり平均個体数 : 多 (+) 5月上旬被害株率 : やや多 (+) 気象予報 : 気温並	<ul style="list-style-type: none"> 本貝が生息するものの現時点で被害の無い水田においても、今後の動向に注意し4葉期に達するまでの浅水管理(4cm以下)や薬剤防除を行う。 千葉県ホームページに掲載の以下チラシを参照する。 「STOP! ジャンボタニシ被害」 (https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r3_zyantani_tirashi.pdf)
	ヒメトビウン カ	少	2月越冬量: 少 (-) 気象予報 : 気温並	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 発生が多い年には飛来期の6月上中旬頃及び出穂期頃に1~2回薬剤防除する。
	イネクロカメ ムシ	並	2月越冬量: 並 気象予報 : 気温並	<ul style="list-style-type: none"> 発生が多い場合には、成虫飛来期の5月中旬~6月に薬剤防除する。
ス イ カ	つる枯病	並	5月上旬発生量: 並 [発生なし] 気象予報 : 気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ほ場の排水を良くする。 多湿を防ぐため、トンネルの換気を十分行う。
	アブラムシ類	並	5月上旬発生量: 並 気象予報 : 気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤散布は葉裏まで十分かかるよう、丁寧に行う。 繁殖が速く、短期間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
	ハダニ類	やや多	5月上旬発生量: 多 (+) 気象予報 : 気温並 降水量並	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
ナシ	黒星病	多	4月下旬発生量：多（+） 気象予報：降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 罹病した葉や果実は、伝染源となるので見つけ次第除去し、適切に処分する。 P6「これから注意を要する病害虫」も参照する。
	アブラムシ類	並	4月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 繁殖が速く、短時間で高密度となるため、防除適期を逃さず早期防除する。
温州ミカン	そうか病	並	4月下旬発生量：並 [発生なし] 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 防除適期は落弁直後なので、適期に薬剤散布を行う。
	ミカンハダニ	並	4月下旬発生量：並 気象予報：気温並 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発生の多いほ場（寄生葉率30%以上）では薬剤防除する。
果樹共通	カメムシ類	やや多	越冬成虫数：並 5月サクラ樹払い落とし調査 ：やや多（+） 4月フェロモントラップ誘殺数 ：やや多（+） 気象予報：気温並	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、地域間差が大きいため、果樹園への飛来状況は地域や園地により大きく異なる。そのため、園内外をこまめに見回り、発生を認めたら、飛来が多い夕方か活動の鈍い早朝に薬剤防除する。

Ⅱ これから注意を要する病害虫

ネギハモグリバエ ～これから定植が始まる作では、特に注意！～

ネギハモグリバエは、成虫による葉の吸汁痕や産卵痕のほか、葉の内部に産卵され孵化した幼虫が葉肉を食害し、白い不規則な線状の食害痕を発生させるなどの被害をもたらす（写真1）。多くの都府県で、従来のネギハモグリバエの遺伝子型（以下「A系統」と表記）とは異なる遺伝子型である別系統（以下、「B系統」と表記）の発生が確認され、特殊報が発表されている。本県でもネギハモグリバエB系統が確認され、令和元年9月に特殊報を発表した。

B系統は、A系統と比較して、葉に著しい食害痕がみられたり、葉が白化したようになるなど被害が大きい（写真2）。

〈発生生態と被害〉

○ ネギハモグリバエA系統及びB系統の形態による識別は困難である。

両系統とも成虫の体長は約2mmで、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である（写真3）。幼虫は、うじ虫状で、成長すると体長約4mmに達する（写真4）。蛹は体長約3mmの褐色で俵状である。

○ 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表又は土中で蛹となる。

○ B系統は、A系統と比較して、一葉あたりの幼虫数が多い傾向にあり、一葉に複数頭の幼虫が、葉の内部に潜り込んで集中的に葉肉を食害する。B系統の初期の食害痕は、従来のA系統と同様で、不規則な白線状であるが、進展すると近接した食害痕同士が結合し、葉全体に及ぶと葉が白化したようになる。



写真1 従来系統（A系統）による被害



写真2 別系統（B系統）による被害



写真3 別系統（B系統）の成虫



写真4 別系統（B系統）の幼虫

※写真は千葉県農林総合研究センター原図

〈防除法〉

- 1 両系統を形態で識別することは困難で、塩基配列データをその都度調べるのも現実的ではない。したがって、本虫の発生を認めたら、系統に関わらず、下表を参考にネギハモグリバエに適用のある薬剤により防除する。定植時などにおける薬剤処理とあわせて、発生初期の防除を徹底する（現時点では、系統間の薬剤感受性の差は明確でない）。
- 2 被害葉及び収穫残さは本虫の発生源となるので、残さは、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。

表 ネギのネギハモグリバエ防除に使用できる主な農薬（農薬の登録内容は令和4年5月1日現在。掲載農薬は、令和4年版農作物病害虫雑草防除指針（千葉県）から抜粋。）

薬剤名	希釈倍数・使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数※1	有効成分	IRACコード※2
スタークル粒剤／アルバリン粒剤	6kg／10a	株元散布	定植時	1回以内	ジノテフラン	4A
	6～9kg／10a	株元散布	生育期（但し、収穫3日前まで）	2回以内	ジノテフラン	4A
ベストガード粒剤	5g／培土ℓ	育苗培土混和	は種時	1回以内	ニテンピラム	4A
	6kg／10a	植溝処理土壌混和	定植時	1回以内		
	6kg／10a	株元処理	収穫前日まで	3回以内		
ベリマークSC	400倍	灌注	育苗期後半～定植当日	1回以内	シアントラニリプロール	28
スタークル顆粒水溶剤／アルバリン顆粒水溶剤	50倍	灌注	定植前日～定植時	1回以内	ジノテフラン	4A
カスケード乳剤	4000倍	散布	収穫14日前まで	3回以内	フルフェノクスロン	15
アフーム乳剤	1000倍	散布	収穫7日前まで	3回以内	エマメクチン安息香酸塩	6
リーフガード顆粒水和剤	1500倍	散布	収穫7日前まで	2回以内	チオシクラム	14
アクタラ顆粒水溶剤	1000～2000倍	散布	収穫3日前まで	3回以内	チアメトキサム	4A
ディアナSC	2500～5000倍	散布	収穫前日まで	2回以内	スピネトラム	5

※1 名称が異なる薬剤でも、同じ有効成分が含まれることがある。そのため、製品ラベル等を十分に確認し、含有する有効成分の種類ごとの総使用回数も使用基準を超えないようにすること。

※2 IRACコード：殺虫剤の作用の仕組みの分類を表すものである。害虫の薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

注：農薬の使用にあたっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

ナシ黒星病

黒星病の主な伝染源は、前年の罹病落葉と、腋花芽のりん片病斑である。

昨年 10 月実施の秋型病斑調査での罹病葉率は平年並、2 月実施の腋花芽りん片調査での罹病芽率は平年よりやや少ない発生程度であった。

しかし、本年 4 月実施の発病状況調査での発病果率（芽基部及び花こうの病斑）は、0.32% であり、平年の 0.11% より高く、過去 11 年と比べて最も多い発生となった。

これは、4 月の中旬以降（千葉市の幸水の満開日：4 月 12 日）定期的な降雨があったことが要因として考えられる。

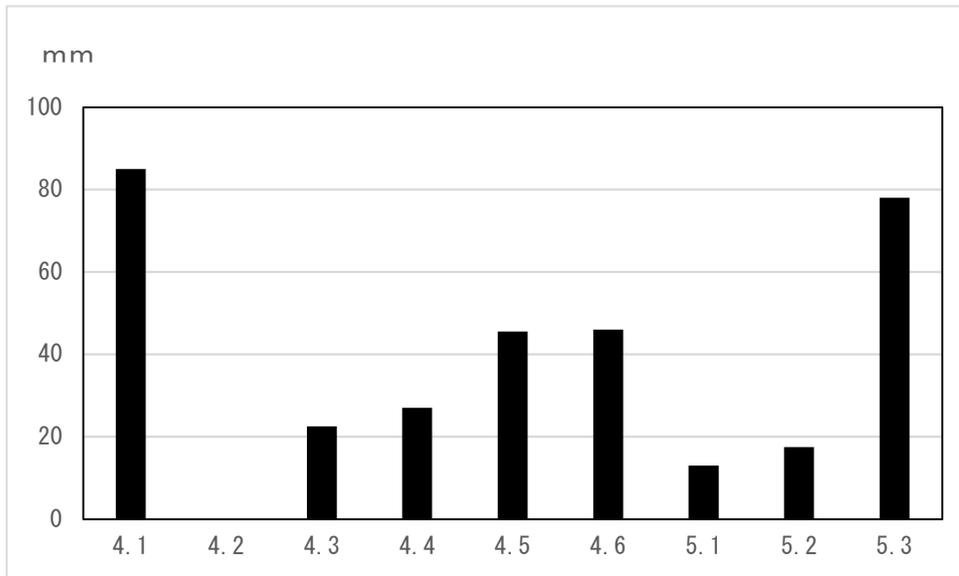


図 降水量（アメダス千葉、月半旬）

5 月 12 日に発表された向こう 1 か月の気象予報では、気温及び降水量はほぼ平年並と発表されている。このため、梅雨時期に向けて感染好適条件が続くと予想されるので注意が必要である。

<感染好適条件>

- 1 病原菌の感染最適温度は、17ないし18℃である。
- 2 降雨等による一定の濡れ条件下（20℃の場合、濡れ時間が9時間以上）で感染する。
- 3 果実の本病の感受性は、開花直後から20 日後頃が高い。ただし、「幸水」は開花55から90 日後にも感受性が高くなるので注意する。

<防除法>

- 1 本病の病斑の除去がその後の蔓延を防止するうえで重要なので、発病葉、発病果実等は見つけ次第除去し、適切に処分する。なお、幼果はどの品種も感染しやすいので注意する。
- 2 薬剤散布は、かけむらのないよう、ていねいに行う。
- 3 それぞれの園での発生状況や今後の気象状況に留意し、防除適期を逃さないようにする（表1）。
- 4 耐性菌対策のために、同系統の薬剤の連用は避ける（表2）。なお、薬剤の選定にあたって、疑問点等がある場合は、普及指導員、営農指導員に相談すること。

表1 5月中旬から6月上旬の黒星病防除薬剤
 (令和4年版農作物病害虫雑草防除指針(千葉県)(幸水・豊水・その他赤ナシ)から抜粋。)

時 期	薬 剤 名	FRACの作用機構 分類コード	希 釈 倍 数	使用時期/使用回数
5月中旬	ベルコートフロアブル(注1)	M7	1500倍	収穫14日前まで/5回
5月下旬	有機銅フロアブル(注2)	M1	1000倍	収穫3日前まで/9回
6月上旬	ベルコートフロアブル	M7	1500倍	収穫14日前まで/5回

注1 黒星病の多発生が心配される場合は、ユニックス顆粒水和剤47の2000倍液(収穫21日前まで/3回)とベルコートフロアブル1500倍液を追加散布する。

注2 有機銅フロアブル剤には「キノンドー」「ドキリン」がある。

表2 黒星病防除に使用する各薬剤系統の種類、使用回数の目安
 (令和4年版農作物病害虫雑草防除指針(千葉県)(幸水・豊水・その他赤ナシ)から抜粋。)

系統名	FRAC コード ※	防除指針 での使用 回数	殺菌剤の例(商品名)
DMI剤	3	3	マネージDF、スコア顆粒水和剤、インダーフロアブル、アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、オーシャイン水和剤、オルフィンプラスフロアブル(注)アクサーフロアブル(注)
QoI剤	11	2	アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル、ナリアWDG(注)、ファンタジスタ顆粒水和剤、スクレアフロアブル
AP剤	9	1	フルピカフロアブル、ユニックス顆粒水和剤47
SDHI剤	7	1	ナリアWDG(注)、アフェットフロアブル、パレード15フロアブル、フルーツセイバー、オルフィンプラスフロアブル(注)、ネクスターフロアブル、アクサーフロアブル(注)、カナメフロアブル、セルカディスDフロアブル(注)

注 ナリアWDGはQoI剤とSDHI剤の混合剤、オルフィンプラスフロアブル、アクサーフロアブルはDMI剤とSDHI剤の混合剤である。セルカディスDフロアブルはSDHI剤とジチアノンの混合剤である。

※ FRACコード: 殺菌剤の作用の仕組みの分類を表すものである。耐性菌の発生を防ぐため、同一コードの薬剤を連用しない。

Ⅲ 参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：4月中旬～5月上旬、スイカ：5月上旬、果樹：4月下旬、果樹カメムシ類：5月上旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病	苗の発病度	0.00	0.00	0.00	2月調査
		もみ枯細菌病	0.23	0.22	0.00	
	苗立枯病	苗の発病度	0.02	0.32	0.17	
		ばか苗病	2.35	0.29	0.56	
	イネヒメハモグリバエ	被害株率(%)	0.00	0.08	0.00	
		畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.10	1.55	0.23	
	イネミズゾウムシ	成虫寄生株率(%)	3.43	1.64	1.54	
		被害株率(%)	13.71	5.26	4.92	
	イネゾウムシ	雑草地すくい取り成虫数	0.47	0.43	1.09	
		成虫寄生株率(%)	0.19	0.08	0.12	
	イネドロオウムシ	被害株率(%)	0.26	0.26	0.68	
		成幼虫蛹寄生株率(%)	0.32	0.14	0.00	
	スクミリンゴガイ	被害株率(%)	0.39	0.10	0.00	
		雑草地すくい取り成虫数	0.26	0.39	0.09	
発生ほ場率(%)		6.45	9.47	13.85		
1㎡当たり個体数		0.62	0.13	0.17		
ヒメトビウンカ	被害株率(%)	0.43	0.18	0.00		
	畦畔3㎡吸い取り成幼虫数	0.83	2.46	2.02		
	雑草地すくい取り成虫数	0.00	0.00	0.00		
イネクロカメムシ	畦畔0.25㎡越冬成虫数	0.03	0.10	0.00		
スイカ (山武・印旛)	つる枯病	発病葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
		発病株率(%)	0.00	0.08	0.00	
	うどんこ病	成幼虫寄生葉率(%)	0.60	0.54	0.40	
		雌成虫寄生葉率(%)	1.40	0.22	0.20	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	0.03	0.00	0.00	
		発病果率(%)	0.32	0.11	0.26	
	赤星病	発病葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
		被害葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
	ハマキムシ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.56	1.07	0.09		
温州ミカン (安房)	そうか病	発病度	0.00	0.02	0.04	
	かいよう病	発病度	0.00	0.04	0.16	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	5.60	6.38	0.60	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
ビワ (安房)	灰斑病	発病葉率(%)	0.25	2.18	1.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.00	0.00	
	カミキリムシ類	被害穴数	0.00	0.43	0.00	
果樹共通	果樹カメムシ類 (安房)	サクラ樹払い落とし虫数 (1網あたり捕獲成虫数)	2.28	1.55	0.19	
	チャバネアオカメムシ (県内全域)	越冬成虫数(頭/3㎡)	0.37	0.51	0.02	

トラップ月間誘殺数(4月) * 種類別の単位の違いに注意

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数(*)			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉、香取、安房	83.3	11.8	0.7	頭/月
	ツマグロウヨコバイ	〃	1.3	0.0	0.3	
	イネヨトウ	〃	0.0	0.3	0.3	
	ニカメイガ	〃	0.0	0.1	0.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	6	0.1	0	頭/月
	クサギカメムシ	〃	2	0.2	0	
	ツヤアオカメムシ	〃	7	1.4	0	
	カメムシ類	〃	15	1.7	0	

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（*）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠	6.2	2.4	7.0	頭/日
	ハスモンヨトウ	県内全域	0.3	0.7	1.4	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	0.3	0.0	0.4	
	オオタバコガ	県内全域	0.2	0.2	0.3	
	タバコガ	県内全域	0.0	0.0	0.0	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾、印旛	3.0	1.2	1.7	
	モモシンクイガ	東葛飾、印旛	0.0	0.0	0.0	
	シンクイムシ類	東葛飾、印旛	3.0	1.2	1.7	
	チャハマキ	東葛飾、印旛	1.3	1.0	0.8	
	チャノコカクモンハマキ	東葛飾、印旛	0.3	1.1	1.8	
	ハマキムシ類	東葛飾、印旛	1.6	2.1	2.6	
チャバネアオカメムシ 集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	県内全域	1.1	0.6	0.4	頭/日
	ツヤアオカメムシ	〃	0.2	0.1	0.0	
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.1	0.0	
	カメムシ類	〃	1.3	0.7	0.4	
	マルボシヒラタヤドリバエ(天敵)	〃	0.1	0.6	0.2	

○気象予報

5月12日気象庁発表

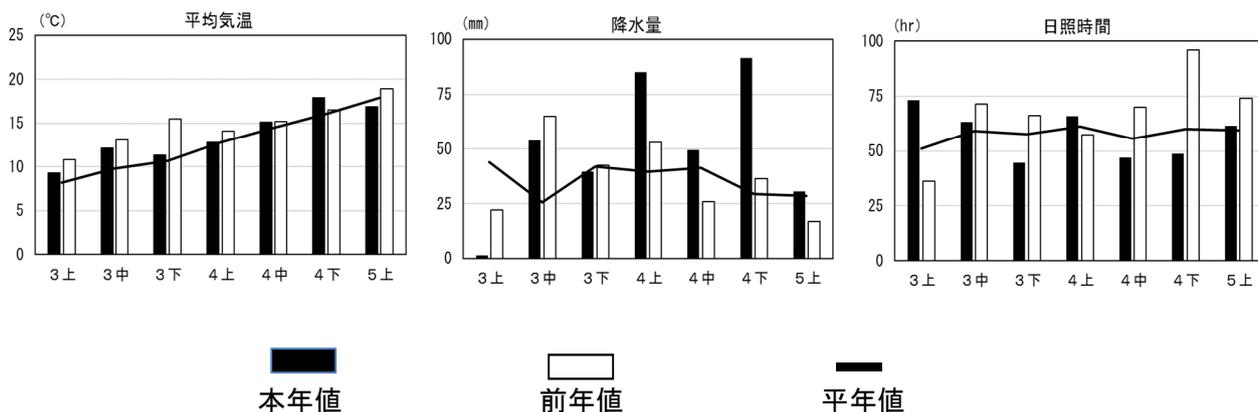
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	40	30	30
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

出典：気象庁ホームページ

向こう1か月間の各気象要素の平年値
(5月14日～6月13日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	19.5	18.0	19.1
降水量(mm)	126.7	138.9	160.4
日照時間(hr)	177.7	189.4	184.0



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています（記載例 農林水産省登録第〇〇〇号）。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は6月15日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

